

拠点名称：技術x教養xデザインで拓く森林資源活用による次世代に向けた価値創造共創拠点

代表機関	秋田県立大学	プロジェクトリーダー	高田 克彦 秋田県立大学 木材高度加工研究所 教授
幹事自治体	秋田県、能代市、大館市	幹事機関	国際教養大学、秋田公立美術大学 株式会社Q0、株式会社フィデア情報総研、一般社団法人サステナブル経営推進機構
参画機関	株式会社竹中工務店、トヨタ車体株式会社、ティンバラム株式会社、合同会社のしろ家守舎、森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社、コードアーキテクト株式会社、NPO法人team Timberize、有限会社r-homeworks		

プロジェクトの概要：新しい循環システムの共創拠点構築

若年層の流出による人口減少・高齢化に伴う地域社会の縮退をどのように解決するかは、日本の将来像を考える上で重要な課題である。我々はこうした状況の根本要因が社会構造上の「循環の滞り」にあると捉え、この解消のために、地域資源をフル活用した新しい循環システムの創造を目指す。ここでの循環とは、地域内外の交流（空間軸）と世代間の継承（時間軸）にあり、その滞りは、①資源・技術、②人材・文化、③経済・産業、に顕著である。例えば②では、若年人口の不還流や里山に関する伝統知の未継承などがある。

こうした問題意識に立ち、本提案は、全国で最も人口減少率と高齢化率が高い秋田県にある公立三大学の強みである「技術・教養・デザイン」を森林資源の多角的活用という切り口に集約しながら、これからの日本を担うZ世代を中心に自治体、民間企業、県内外の優れた人材がワンチームとなり、新しい循環システムを共創する価値創造拠点を構築する。本提案での森林資源は、材料に留まらず、人々が育んできた自然との共生的な暮らしのあり方という文化的意味も含む。こうした総合的な森林資源を余すことなく活用するため、技術が材としての森林の可能性を広げ、教養が地域文化を相対化してその価値を引き出し、デザインが地域社会への実装を主導していく。本提案の拠点ビジョンの実現にむけ、以下の3つのターゲットに取り組む。

- T1：木造・木質化による公共空間の創出（①資源・技術）
- T2：Z世代を中心とした新たな価値創造プロセスの構築（②人材・文化）
- T3：新規産業創出の源となる持続的エコシステムの形成（③経済・産業）

本拠点の全体像

